



インド福祉村協会 会報

1999.4.1
Vol.4

India Welfare Village Society News

インド福祉村病院診察開始

開院日

1998年11月2日

祝・開院

理事長 山本孝之(福祉村病院院長)

インド福祉村病院(アーナンダ病院)は98年9月に仮診療と感謝式を行い、本格的診療が待たれておりましたが、工事も進行し病院スタッフも決定して、98年11月2日より診療を開始しました。クシナガラ地区の貧しい患者が押し寄せ、スタッフは整理に懸命でした。99年1月には救急車の車庫も完成し、春には全医療機器が設置される予定で益々充実した医療が提供されることとでしょう。



▲目的ボードと救急車



▲病院全景

皆様のあたたかいご協力とご支援の御陰で、インド福祉村病院を開院することができました。病院職員達の努力もあって、地元の皆様から信頼されて利用者の数もうなぎ昇りに増えております。ご支援いただいた皆様に、ぜひ立派に出来上がった病院を見ていただき、職員達にも励ましの言葉をかけていただきたいと考え、ツアーも計画しておりますので、その節はよろしくご参加のほどをお願い申し上げます。

しかし、これから医療機器の整備も進めなくてはなりませんし、職員達の教育のためにも、ボランティアの医師や看護婦の派遣が必要になります。

インド福祉村が、インドの皆さんの健康と幸せを守る働きを続けられるように、今後とも皆様のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

新医師挨拶

P・N・グプタ
(コロンブス医科大学出身)



医師/P・N・グプタ氏▶

私が今回この病院に赴任したグプタです。IWSとAMCTの両協会がデオリア、クシナガラ地域の医療を充分受けられない貧しい人々のためにアーナンダ病院を造って頂いたことに大変感謝しております。そして私が医師としてこの役割の一端を担う機会を与えられたことを大変嬉しく思います。

日本のたくさんの人々のあらゆる支援と、インドの人々の協力があつて、この病院が建設されました。その志は真に尊いものだと感じます。私は診察をしながらこの尊い志を多くの患者さん達に伝えてまいります。また、患者さんもこの病院で治療を受けられることに深く感謝することでしょう。

飯島先生、山本先生の熱烈な志のもとに柴田先生や大竹先生、藤田看護婦が度々インドを訪れて發揮される情熱は、私と病院職員の大変良い励みになっております。今後、多くのボランティアの人達がこの病院を訪問され、支援してくださることを期待しております。

▼病院内での診察の様子



ります。

私はこの病院を訪れる患者さん達を、心底から精一杯治療し、最高の援助を与えられるように努力したいと決意しております。

将来この病院が医療を通じてインドと日本の親善と交流の場として大きく発展することを願っております。

原稿英文

近況報告

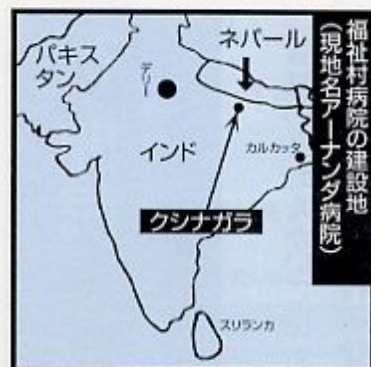
本年2月16日より三日間、私は現地インド福祉村病院に滞在し、見聞した点について報告致します。

まず、病院の基本的建築は全て完了しました。環境整備もよく行われており、門から正面玄関までの通路の片側には美しい花壇が造られており、白壁の建物との調和がとても美しく感じられました。

病院スタッフはグプタ医師以下13名で、仕事をしっかりしております。現在、一日の患者数は40名前後であり、病院の評価も良好な様で、安心した次第です。

2月17日、18日の両日、私はグプタ医師と二緒に診療を行いました。今の時期、当地では最も患者の少ない時だということでしたが、結核、腸チフスの患者も来院しました。また、水頭症の幼児、結核性脳膜炎による脳性麻痺の子供も診療しました。

▼診察中の柴田氏



【現地住所】

ANANDA HOSPITAL
SIRASIA NEAR KUSHINAGAR
274403 UP INDIA



▲待合室

常務理事

柴田昌雄

(愛知学院大学教授)

いずれも日本ではこの様な患者を見ることはまず皆無です。今更ながら一日でも早く、このインドの地に日本の医療レベルに近いものが展開されることを願わざるをえません。

2月18日の午後、近いうちの再会を約束して、スタッフ全員の見送りのうちに帰国の途につきました。

インド式の診療開始

評議員

大竹 紘一

(現地コーディネーター)

開院報告

評議員藤田亜矢子

(看護婦)

待ちに待ったアーナンダ病院の診療が地元スタッフ8名と藤田看護婦と私で始まりしました。柴田先生の仮診療と感謝式から2ヶ月、外回りは工事中でも電気も不備のままのスタートとなりました。全く非公開で診療を始めたので、不安で一杯でしたが人伝えで聞いた患者が初日21名も来てくれました。三日目からはどっと患者が押し掛けてドクターが悲鳴を上げ、50名にて受付をストップし朝早くから整理カートを配るなど、患者の整理に職員は大変な状態でした。

開始にあたっては薬と消毒薬、血圧計と診察机があるのみで、水は古い井戸水、電気は発電器のみで、玄関道路はまだ工事中で満足に便所も水道も使えない状態でしたが、若いドクターは張り切つてインド式を開始することになりました。

◀ 看護婦と患者



この計画実施に奔走しましたが、工事中工までの諸問題、工事の進行が山あり谷ありで遅延、30年ぶりという猛暑の中で頭足を水で冷やしながらの苦勞、9月には開院可能なのにインド式に遅延、等々本当に厳しい障害が沢山ありました。10月の開院も2度も延期され、滞在中は諸問題解決に走りまわる日々でした。工事中から丸一年で開院したことに地元の人々は驚嘆しておりました。無事開院できたのは多くの人々

の絶大な援助があったからこそと感謝せずにはいられませんでした。この病院が真にインドの貧しい人々への支援となり両国の友好が深まるには3年後、5年後とそれだけ病院が愛されるかに期待するしかない、そのための支援を惜しまないことだと考えます。

▲ 病院の全スタッフ



▼ 診察の様子



11月2日のオープンから2ヶ月間、私はアーナンダ病院のオープンニングのヘルパーとして、スタッフみんなで頑張ってきました。当初は何もない状態でのスタート。医療スタッフはドクターのみ。血圧計、聴診器、二週間分の現地の薬に日本からもってきた消毒液などの簡単な dressing 材料のみ。それでも、たくさんの患者さんが来て、最初の週間はてんでこまいでした。

2週間もたつと小さな村には新しい病院に対し、様々なわさが流れ、一時はどうなることかと思いましたが、スタッフみんなの一生懸命さが徐々に信頼関係を築き上げていきました。やはり、現地の人々が一番よくその土地を理解し、上手に自分たちのポジションや役割を作っていくんだなあと少し淋しくもありましたが、嬉しくもありました。現地のチアスが決定してからは、とにかくスタッフが仲良く働けるあったかい場を作っていくと心掛けました。



▲ 子供たちと一緒に

開院報告

評議員

藤田亜矢子(看護婦)

私たちはもつと、その土地のことを知らなければなりません。この土地にはどんな疾病が流行し、住民がどんな問題を抱え、病院に何を求めているのか等を、住民の生活に添って把握するため、インタレピューもを行いました。しかし、2ヶ月ではあまりにも短すぎ、私にはまだそのニーズがわかりませんが、この病院が今後本当の意味でこの土地に根づくためには、まず様々なリサーチから住民のニーズを知ること。そして、ドクター、ナース、スタッフがどんな病院を目指しているのかをはつきりさせることです。

日本側が資金面の他にも、どこまで、現地の病院を陰からサポートするのだと思います。現地のスタッフは本当にまじめで働き者です。お金や物だけ渡して、あとは彼らにまかせせるのはあまりにも無責任です。どんな病院にしたいのかをビジョンとして出し、それに向かつて細かく計画をたて、日本側もそれに添って準備し、彼らの働きやすい場をつくっていくことが大切だと思えます。たった2ヶ月でしたが、私には大きな自信となった日々でした。本当にこの機会を与えて下さった皆様に、深く感謝いたします。

病院規約



- 1) 初診時、患者カードをつくり、5RSを支払う。その他は実費を支払う。(検査等)
- 2) 時間受付 (8:30-12:00) 診察 (9:00-14:00)。
- 3) 患者は院外で手足を洗い、院内に入るときには履き物を脱ぎ、静かに待つ。
- 4) 受付は順番に並び、診察カードをつくる。(VIP、知人、家族も同様)
- 5) 病院内は禁煙、禁SPIT、禁PAN、禁食事を守る。
- 6) ゴミ、チリは必ずTRASE BOXにを入れる。
- 7) 感染に充分注意し、トイレを必ず使う。
- 8) 診察室内には患者と一人の援助者のみで、家族で入らない。
- 9) 壁、柱、その他にむやみに触れない。
- 10) 人力車、自転車、自動車はゲートにて下車する。
- 11) 子供が走り回らないように注意し、管理棟には立ち入らない。
- 12) ゲストは名前を胸につける、VIPゲストも特別扱いはしない。
- 13) 診察中は特別者としてむやみに入らない(VIP、メーカー、知人)。
- 14) 病院のスタッフにルビーを渡してはならない。
- 15) 日曜日は休診とする。他に12日間祝日を休診とする。

募金のお願い!

私達はインドの人々に医療と生活改善を無料で行うことを目的としております。

インドは最近特にインフレ状態にあり建設費も高騰しております。

開院後も医療器具、備品、運営費に相当不足が見込まれます。

みなさんにお寄せいただいた善意はAPIC(国際協力推進協会)事業団を通じてインド・アーナンダ協会に寄付され活動に使わせていただきます。

少しでもあなたの善意を分けて下さい。

寄付先/住友銀行 東京公務部 普901404(財)国際協力推進協会「ブダガヤ病院建設」口
問い合わせ先/インド福祉村協会事務局

■募金/別紙銀行振り替え用紙にて上記口座へご送金下さい。この募金については税法上の優遇措置がとられません。確定申告時にご提出下さい。

■賛助会員/1,000円(1口以上) ■維持会員/5,000円(年間1口以上) ■特別会員/100,000円(1口以上)

※郵便振込の場合、別紙郵便振込用紙にてご送金下さい。【口座番号】00830-2-65008 -インド福祉村協会-

インド福祉村協会(IWVS)

会長/飯島宗一(元名古屋大学学長) 理事長/山本孝之(福祉村病院院長)

常務理事/柴田昌雄(愛知学院大学教授) 理事/高木天昊(慈尊寺住職)

ほか

■発行者 インド福祉村協会(IWVS)

■発行人 大竹紘一 ■編集協力 文創社

■インド福祉村事務局

〒441-8124 愛知県豊橋市野依町山中19-12

TEL0532-48-1138 FAX0532-48-2365